



沢浦 彰治



有馬流太郎



永井 則吉



田子 宏美



守田 達郎

後、他の学習塾勤務などを
経て2011年、うすい学園に
入社。12年から教室長、18年
から現職

江黒 太郎
クスリのマルエ社長
えぐる・たろう 1976年、
旧大胡町生まれ。大学卒業
後、米国で経営学修士取得。
国内大手製薬会社で営業、
海外事業、マーケティング
を経験後、クスリのマルエ
に入社し、2016年から現職

金井 修・クライム社長
かない・おさむ 1961年、
沼田市生まれ。群馬富士通勤務を経て、89年にクラ
イムを設立。金融・行政のシステム開発と積極的な
M&A(合併・買収)などで事業を拡大してきた

沢浦 彰治・野菜くらぶ社長
さわうら・しょうじ 1964年、昭和村生まれ。高
校卒業後、県畜産試験場での研修を経て、20歳で養
豚と畑作に従事。著書に『農業で成功する人うまく
いかない人』(ダイヤモンド社)など

有馬 流太郎
サントリー酒類市場開発本部広域営業第2
部長
ありま・りゅうたろう 1971年、京都市生まれ。
大学卒業後、サントリーに入社。福岡支店や市場開
発本部、大阪支店、東京支店を経て、再び市場開発
本部で外食ビジネスを担当

永井 則吉・永井酒造社長
ながい・のりよし 1972年、川場村生まれ。95年
に永井酒造に入社。専務取締役工場長を経て2013
年から現職。世界基準を設定した「awa酒協会」を
16年に設立して理事長に就任

田子 宏美・田子会計事務所代表
たご・ひろみ 1980年、前橋市生まれ。税理士、
中小企業診断士。名古屋で勤務後に帰郷し、2019
年から現職。女性経営者、創業者の支援、事業承継、
コンサルティングに力を入れている

守田 達郎
プリマベラリサイクル事業部長
もりた・たつろう 1985年、富山県氷見市生ま
れ。古着や貴金属、骨董品などのリサイクル事業を
中心に県内外で展開するプリマベラに2008年入
社

を回り、「これだけ
地域の方から頼りに
されているのだから、地域
のために使命を果たそう」
と声を掛けた。従業員の働
く環境を整え、地域社会に
貢献することの誇りを伝え
るのが経営者としての一番
の目標です。

前橋をICTの聖地 弁

商品や事業開発に力 沢浦

外飲みで感動体験を 有馬

【弁】 当社のIT業務受
注量は、9割が東京。テレ
ワークを推進することで、
東京の仕事を群馬でもでき
るようになった。こうした
新たなビジネスモデルがコ
ロナ禍をきっかけにスムー
ズに進んでいる。
政府のデジタル庁創設や
中小企業のIT化推進で、
中長期的にはIT投資が増
える想定している。腰痛
社長が取得に尽力したJR
前橋駅前のアクエル前橋に
入居する新たなオフィスに
国内外の優秀なエンジニア
を集め、日本中の仕事、世
界中の仕事を集めることで
前橋をICTの聖地にした
い。子どもたちがプログラ
ミングの楽しさを体感する
活動も行い、群馬で仕事が
できる環境を整えたい。

の仕事を、コロナ禍を通
して改めて感じた。今後も
地域社会から頼られる企業
を目指す。

プに詰める機械を既製の機
械を活用して組み立て直
し、大幅にコスト減を図つ
た。商品開発や事業開発に
力を入れるとともに、農業
生産をより強固にすること
が将来に向けた目標だ。

【有馬】 アルコール飲料の
製造販売をしている。飲食
店休業による業務用ビール
の影響が大きく、4月に激
減した後、徐々に戻ってき
てはいるが、いまだ家庭用

ビールの挽回があってもカ
バーできていない状況だ。
コロナ禍で人の動き方や
考え方、価値観が大きく変
わった。この変化を捉える
必要がある、デジタルを駆
使して顧客の理解を深めた
い。家飲みが広がる中、外
飲みが「感動体験の場」で
あることがますます重要と
なっている。健康を意識し
た商品開発にも力を入れた
い。環境に優しく、社会に
貢献していると消費者から
信頼を得られるよう、「や
つてみなはれ」の創業精神
で今後もチャレンジしてい
く。

地元貢献できる商品 永井

「信頼の残高」増やす 守田

平時に備え体力増強 守田

【永井】 日本酒業界も大打
撃を受けている。日本酒メ
ーカーの6代目で、かつて
ない売り上げダウンに直面
している。そんな中、SD
Gsの観点から尾瀬のミズ
バショウを守る環境保護の
プロジェクトを立ち上げ
た。有名アーティストとコ
ラボした新商品の開発と連
動し、売り上げの5%をプ
ロジェクト資金として寄付
するなど、地元根差した
企業として前を向いて頑張
つていきたい。

で長い目で見えた適切な提案
をし、ともに成長していき
たい。ビジネスの場での女
性活躍の支援も継続して行
きたい。

【守田】 「もったいない」
をビジネスにする会社で、
リサイクルショップを中心
に4事業部17業態で運営し
ている。コロナ禍の影響を
受け、大きく二つのことを
社内を取り組んだ。ネット
販売を全店で一気に加速し
たほか、スタッフに明るく
元気に楽しく働いてもらう
ためオンライン日報を考案
した。

【沢浦】 県内外で生産した
農産物を加工、販売してい
る。コロナ禍による果物も
り需要で受注が多く、一時
的にバブルのような状況だ
った。今年は、菅平(長野
県)の農場の事業譲渡を受
けた。レタスを例にすると、
菅平のほか、群馬、青森、
静岡、岡山の5カ所で生産
し、年間を通しての提供が
可能となる。産地の分散化

コロナ禍前は、海外の著
名なシェフやソムリエに会
うため海外出張が多かつ
た。渡航が難しい今は事前
に商品を送り、オンライン

でテイティングコメント
を聞ける。これまでに培っ
た人間関係が生きている。

【田子】 私ども税理士事務
所の理念は、「中小企業の
一番のパートナーになり、
ともに成長していくこと」。
コロナ禍の非常時こそ、業
務を滞らせず、お客さまに
合った情報を提供し、経営
の役に立てるようにと努力
した。結果として、お客さ
まも順調に借入れや給付
金申請ができ、私どもが大
切にしている「信頼」の残
高を増やすことができた。
今後も変化に迅速に対応
し、お客さまと一緒に明る
い未来をつくるための会計
を提供し、パートナーとし

日報はお客さまへの改
善提案などを報告し、内容
に応じて月単位で百点満点
中、何点取れるかゲーム感
覚で楽しめる方式。スタッ
フには、コロナ禍は高地下
レーニングだと伝え、「平
時に戻れば、鍛えた体力が
売り上げを押し上げ、給
料も上がる」とやる気を高
め、自らも奮い立たせてい
る。